

2026年3月期 第3四半期 (2025年4月1日～2025年12月31日) 決算説明資料

2026年2月6日
IDEC株式会社
証券コード：6652

IDEC株式会社 2026年3月期 第3四半期決算説明会を始めさせていただきます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、コーポレートコミュニケーション室の元山理映子と申します。

本日の出席者をご紹介します。

取締役 常務執行役員 船木崇雄です。

グローバルファイナンス本部 本部長 小川泰幸です。

宜しくお願いいたします。

本日は、第3四半期の決算概要についてご説明させていただきます、その後質疑応答を行わせていただきます。

売上

■ **売上高** **530億円** (前年同期比 + 7.2%)

- 日本は、流通在庫の解消と共に、主要産業の需要が徐々に回復していることから、グループ会社の事業譲渡の影響がある中でも、売上は増加
- 中国は、流通在庫が正常化しつつあり、自動車や半導体業界の需要も拡大していることなどから、引き続き好調に推移
- 米国では、追加関税分の販売価格への転嫁による影響もあり、売上が拡大

利益

■ **営業利益** **44億円** (前年同期比 + 90.4%)

■ **経常利益** **49億円** (前年同期比 + 107.6%)

■ **四半期純利益**[※] **29億円** (前年同期比 + 78.6%)

※親会社株主に帰属する四半期純利益

- 増収の影響により、利益は大幅に改善

それでは、決算概要についてご説明させていただきます。

第3四半期累計期間の業績についてですが、日本は流通在庫の消化が進んでいることに加え、主要産業の需要が徐々に回復しております。

そのため、2025年3月に事業譲渡した、太陽光発電関連のグループ会社の売上が今期からなくなった中でも、売上は増加いたしました。

中国は、流通在庫が正常化しつつあり、自動車や半導体業界の需要も拡大していることなどから、引き続き好調に推移しております。

また米国では、追加関税分の販売価格への転嫁を行った影響などもあり、売上が拡大いたしました。

これらの結果、第3四半期累計期間の連結売上高は、前年同期比7.2%増の530億円となりました。

利益については、増収の影響により、営業利益は前年同期比90.4%増の44億円となるなど、大幅な増収増益を達成いたしました。

連結業績概要 <連結損益計算書> - 1



(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2025年3月期 3Q累計		2026年3月期 3Q累計		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	49,470	100.0%	53,017	100.0%	+ 7.2%
売上総利益	21,396	43.3%	23,605	44.5%	+ 10.3%
販売費及び一般管理費	19,095	38.6%	19,225	36.3%	+ 0.7%
営業利益	2,301	4.7%	4,380	8.3%	+ 90.4%
経常利益	2,367	4.8%	4,913	9.3%	+107.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,616	3.3%	2,886	5.4%	+ 78.6%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	54.84円	-	97.78円	-	+42.94円
米ドル平均レート (円)	152.64円		148.71円		△3.93円
ユーロ平均レート (円)	164.88円		171.83円		+6.95円
人民元平均レート (円)	21.16円		20.77円		△0.39円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

3

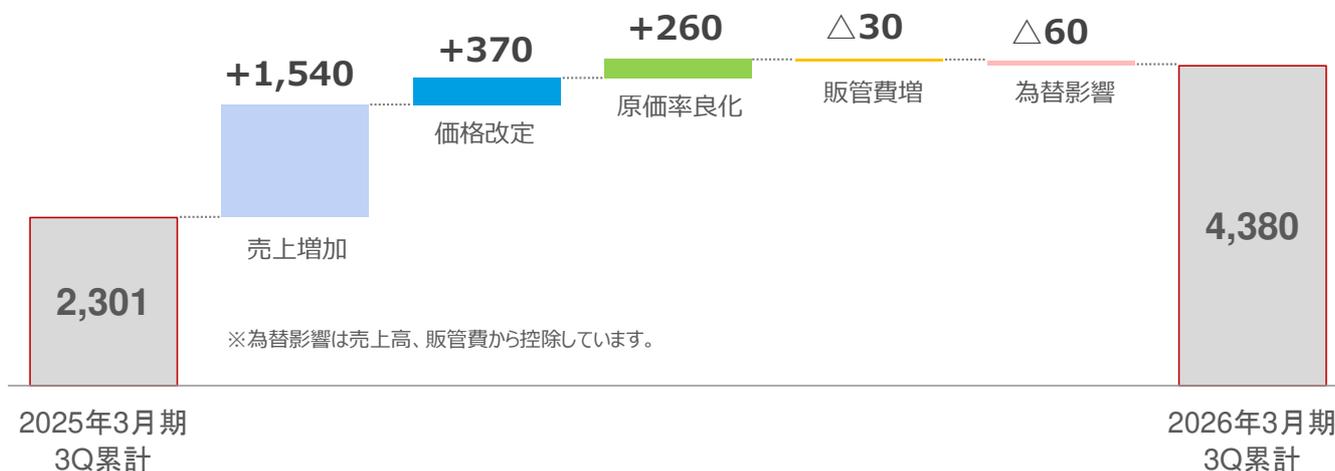
業績概要はご覧の通りですが、売上高の伸長に伴い粗利率は44.5%となりました。

また販売管理費については、前期より実施してきた構造改革効果などにより労務費が低減したことから、販管費率は36.3%となりました。

営業利益率は8.3%、経常利益率は為替差益の計上などにより9.3%となるなど、順調に利益水準は回復しております。

米国の追加関税分を販売価格に転嫁したことなども寄与し、売上が増加したことに加え、利益率の高い地域や製品の売上が堅調に推移したことなどから、営業利益は前年同期比で約20.8億円増加

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



続いて、営業利益の変動要因についてご説明いたします。

売上が堅調に推移したことに加え、米国の追加関税分を販売価格に転嫁したことなどから、売上増加の影響が約15.4億円となりました。

また、グローバルでの価格改定効果として約3.7億円、利益率の高い地域や製品の売上が堅調に推移したことから、原価率良化として約2.6億円のプラス影響がありました。

販売管理費については、前期に実施した日本のセカンドキャリア支援制度による労務費の減少や、2025年3月に事業譲渡した太陽光発電事業のコスト削減効果があった一方で、為替の影響や、2025年4月に米国拠点を統合したことなどにより、海外では一部コストが増加いたしました。

これらの結果、営業利益は前年同期比で約20.8億円増加いたしました。

連結業績概要 <連結損益計算書> -2



- 収益性の高い日本・米州などの地域や、HMI・安全関連機器の売上が伸長したことなどから、前年同期比で売上、利益ともに大きく改善

(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2025年3月期				2026年3月期						
	3Q (10-12月)		4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	16,381	100.0%	17,909	100.0%	15,736	100.0%	18,374	100.0%	18,906	100.0%	+15.4%
売上総利益	7,008	42.8%	8,040	44.9%	6,643	42.2%	8,584	46.7%	8,377	44.3%	+19.5%
販売費及び一般管理費	6,258	38.2%	6,688	37.3%	6,318	40.2%	6,298	34.3%	6,608	35.0%	+ 5.6%
営業利益	750	4.6%	1,351	7.5%	324	2.1%	2,286	12.4%	1,769	9.4%	+135.7%
経常利益	903	5.5%	1,110	6.2%	627	4.0%	2,282	12.4%	2,003	10.6%	+121.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	334	2.0%	162	0.9%	465	3.0%	1,290	7.0%	1,130	6.0%	+238.1%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	11.34円	-	5.52円	-	15.77円	-	43.71円	-	38.30円	-	+26.96円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

5

四半期別の状況については、各地域で売上が好調に推移しており、収益性の高い日本・米州の地域や、HMI・安全関連機器などの売上が伸長したため、前年同期比で増収増益となりました。

なお第2四半期は、米国に新設したロジスティクスセンターの立ち上げ遅れをキャッチアップしたことによる売上の増加と、コストの低減を行ったことから、利益率が当初想定よりも大きく上振れましたが、第3四半期は通常のオペレーションに戻っており、安定的に利益は回復しております。

仕向地別売上状況



(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2025年3月期 3Q累計	2026年3月期 3Q累計	前年 同期比
日本	17,469 (35.3%)	17,940 (33.8%)	+ 2.7%
海外	32,000 (64.7%)	35,076 (66.2%)	+ 9.6%
米州	10,588 (21.4%)	11,706 (22.1%)	+10.6%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	10,832 (21.9%)	11,053 (20.9%)	+ 2.0%
アジア・ パシフィック	10,579 (21.4%)	12,316 (23.2%)	+16.4%
合計	49,470 (100.0%)	53,017 (100.0%)	+ 7.2%

日本 前年同期比 + 2.7%

- 流通在庫の消化とともに、主要産業の需要が徐々に回復し、グループ会社の事業譲渡の影響がある中でも売上は増加

海外 前年同期比 + 9.6%

- 米州では、米国の追加関税分の販売価格への転嫁による影響に加え、第3四半期にかけて受注残の解消も進んだことから、売上が増加
- EMEAは、景気低迷や地政学リスクの影響などにより主要産業の需要が落ち込んだものの、円安の影響により、売上は微増
- アジア・パシフィックは、中国での自動車・半導体業界などの需要拡大や、流通在庫の正常化により、売上が増加

仕向地別売上高については、日本では流通在庫の消化とともに、主要産業の需要が徐々に回復していることから、グループ会社の事業譲渡の影響がある中でも売上は増加しております。

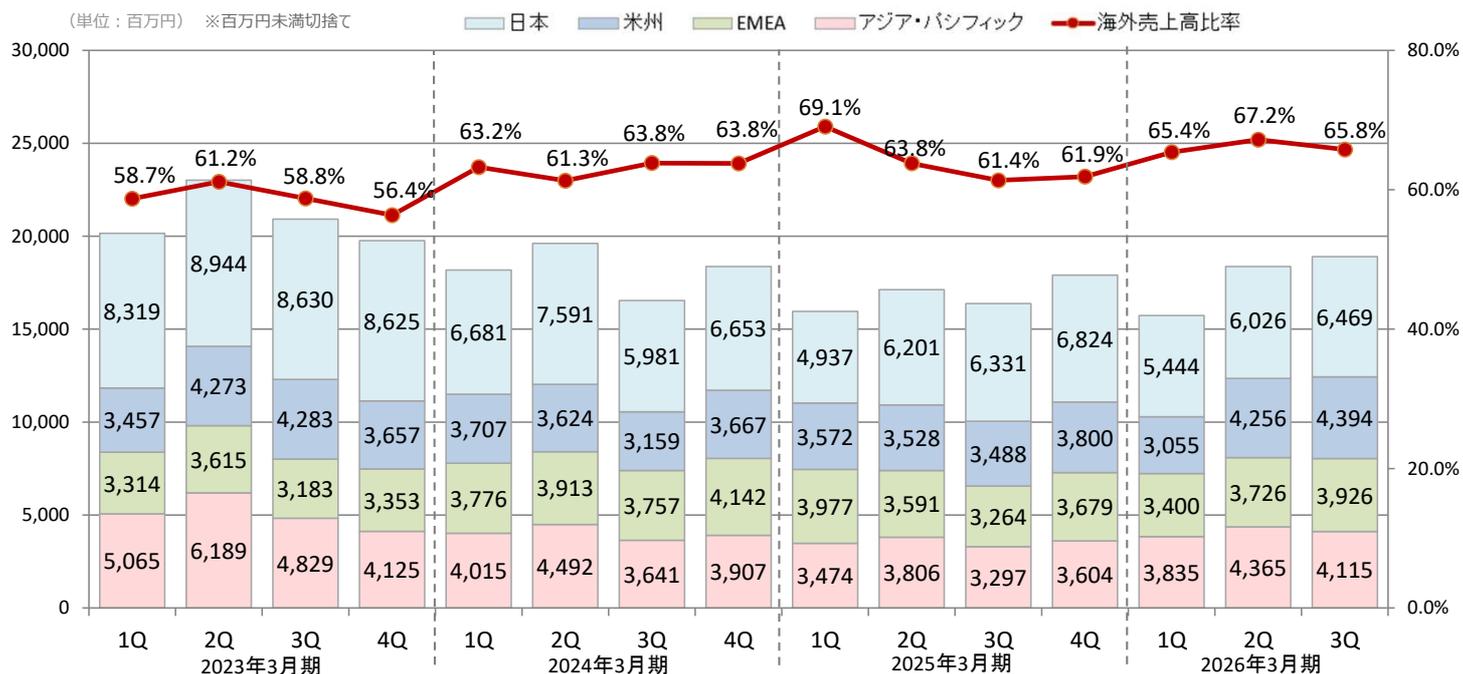
米州は、新設したロジスティクスセンターの立ち上げ遅れにより第1四半期に売上が減少いたしました。第2四半期に挽回しており、追加関税分の販売価格への転嫁による影響や、第3半期にかけて受注残の解消が進んだことから、売上は増加いたしました。

EMEAについては、景気低迷や地政学リスクの影響などにより主要産業の需要が落ち込んだものの、円安の影響により、売上は微増となりました。

アジア・パシフィックは、中国での自動車、半導体業界などの

需要拡大や、流通在庫の正常化により、売上が増加いたしました。

仕向地別売上状況 (四半期推移)



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

7

四半期別推移でも、各地域の売上は回復傾向となっております。

製品別売上状況



(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2025年3月期 3Q累計	2026年3月期 3Q累計	前年 同期比
HMI事業	23,902 (48.3%)	24,675 (46.5%)	+ 3.2%
インダストリアルコンポーネンツ事業	8,258 (16.7%)	9,456 (17.8%)	+14.5%
オートメーション&センシング事業	6,288 (12.7%)	5,708 (10.8%)	△ 9.2%
安全・防爆事業	7,959 (16.1%)	9,324 (17.6%)	+17.2%
システム	2,425 (4.9%)	3,851 (7.3%)	+58.8%
その他※	635 (1.3%)	—	—
合計	49,470 (100.0%)	53,017 (100.0%)	+ 7.2%

※IDECシステムズ&コントロールズ株式会社（太陽光発電事業）の売却等により、2026年3月期から「その他」は廃止

HMI事業

欧州における景気低迷や特殊車両業界の需要減少などの影響はあるものの、流通在庫の正常化に加え、ファクトリーオートメーション向け産業用スイッチの売上が堅調に推移

インダストリアルコンポーネンツ事業

主力のアジア・パシフィックや北米市場において、制御用リレーなどの売上が増加

オートメーション&センシング事業

主力製品であるプログラマブルコントローラは、北米で堅調に伸長し、OEM先の受注も改善傾向にある一方、日本のバーコードリーダの売上減少などが影響し、全体として売上は減少

安全・防爆事業

主力市場の日本やアジア・パシフィック、特に中国における安全関連機器の売上が堅調に推移

システム

日本、アジア・パシフィックで、半導体製造設備・物流関連設備などの制御盤の売上が増加

続いて、製品別売上高についてご説明いたします。

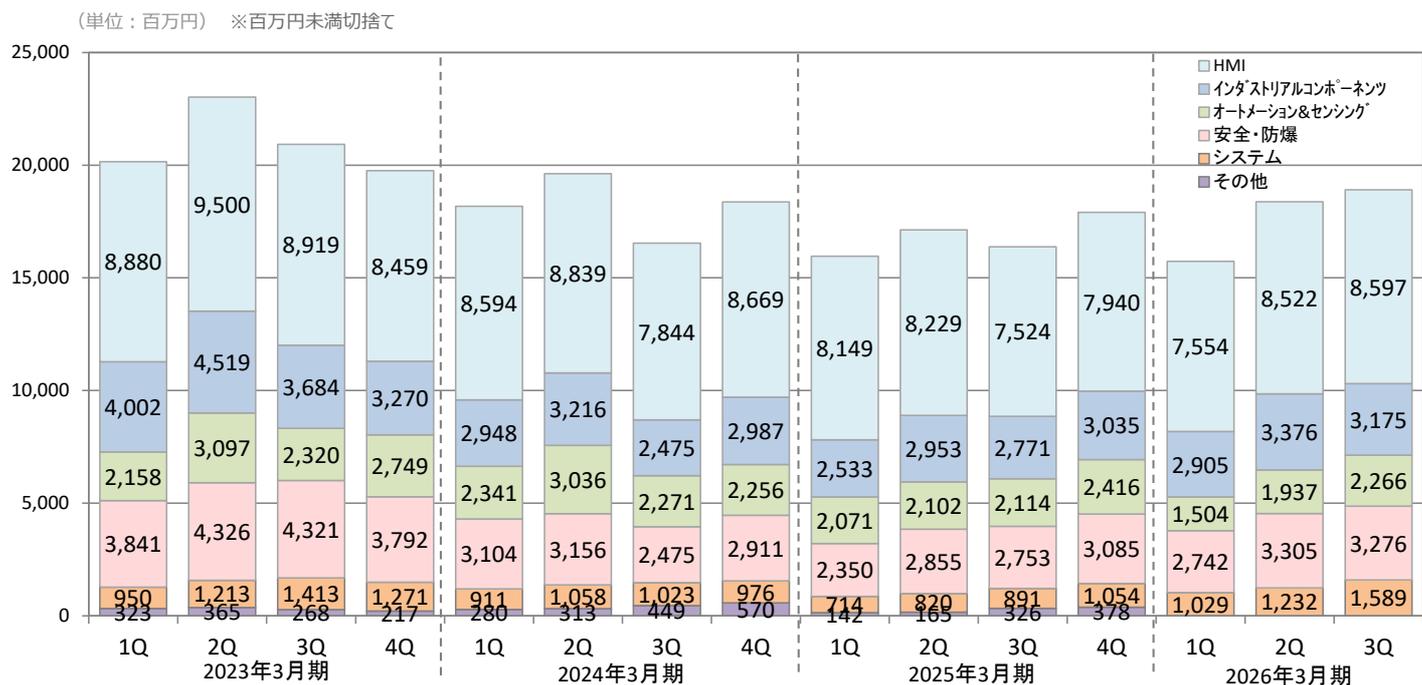
HMI事業は、欧州の景気低迷や特殊車両業界の需要減少の影響などにより、APEMブランド製品の売上はまだ十分回復していないものの、IDECブランド製品はファクトリーオートメーション向け産業用スイッチの売上が好調に推移し、全体として売上は増加いたしました。

インダストリアルコンポーネンツ事業は、主力のアジア・パシフィックや北米市場において制御用リレーなどの売上が増加いたしました。

オートメーション&センシング事業については、主力製品であるプログラマブルコントローラが北米で堅調に伸長し、OEM先の受注も改善傾向にある一方、日本のバーコードリーダの売上減少が影響し、全体としては売上が減少いたしました。

安全・防爆事業については、主力市場の日本に加え、中国における安全関連機器の売上が堅調に推移したことから、売上が堅調に推移いたしました。

製品別売上状況（四半期推移）



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

9

四半期別推移でも、各事業の売上は好調に推移しており、第2四半期比では、オートメーション&センシング事業やシステム事業が伸びました。

オートメーション&センシング事業については、四半期ごとに徐々に売上が回復しております。第2四半期比で、バーコードリーダなどのセンシング機器の売上が日本で伸びたことに加え、日本・欧州においてモビリティ事業や、OEM先向けのプログラマブルコントローラの売上が増加しました。

単位：百万円 ※百万円未満切捨て	2025年3月期 3Q累計		2026年3月期 3Q累計			
	受注高	受注残高	受注高	前年同期比	受注残高	前年同期比
日本 (太陽光発電事業を除く)	20,100 (19,316)	6,831	20,038	△ 0.3%	5,627	△17.6%
米州	10,001	2,453	11,813	+18.1%	2,873	+17.1%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	10,649	7,500	11,431	+ 7.4%	7,738	+ 3.2%
アジア・ パシフィック	8,275	2,742	8,880	+ 7.3%	2,665	△ 2.8%
合計	49,027	19,528	52,164	+ 6.4%	18,906	△ 3.2%

売上高と同様に、受注高も各地域で回復傾向となっております。

日本については、前期まで太陽光発電事業に関する実績が、受注と受注残に入っておりましたが、事業譲渡に伴い今期からは当該事業が入っておりません。その影響を除いた数値で比較すると、流通在庫の正常化に伴い受注高は増加しております。

受注状況（四半期推移）



- 日本は、2Q比ではグループ会社で若干の受注減があったものの、流通在庫の正常化もあり回復傾向は継続
- 米州は、APEMブランドの顧客である建設機械やマテハン業界向け需要はまだ回復していないものの、IDECブランドの主要顧客であるファクトリーオートメーション業界向けは堅調に推移
- EMEAは為替の影響もあり改善傾向となっており、アジア・パシフィックは、主に中国の受注が堅調に推移

単位：百万円 ※百万円未満切捨て	2025年3期				2026年3期					
	3Q（10月～12月）		4Q（1月～3月）		1Q（4月～6月）		2Q（7月～9月）		3Q（10月～12月）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
日本 (太陽光発電事業を除く)	6,996 (6,685)	6,831	7,535 (6,320)	5,271	6,541	5,985	6,875	6,168	6,621	5,627
米州	3,229	2,453	3,908	2,611	3,557	3,191	3,953	2,929	4,302	2,873
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	3,450	7,500	3,776	7,522	2,989	7,086	3,767	7,072	4,675	7,738
アジア・ パシフィック	2,908	2,742	4,573	4,353	2,421	3,269	3,007	2,591	3,451	2,665
合計	16,584	19,528	19,794	19,758	15,510	19,532	17,604	18,762	19,050	18,906

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

11

四半期別の状況については、日本はグループ会社での受注減少の影響を受けたことから、第2四半期比で若干の減少となりましたが、本業であるファクトリーオートメーション業界向けの需要については、引き続き堅調に推移しております。

米州については、建設機械やマテハン業界向けの需要減少により、APEMブランド製品の受注が弱い状況がまだ続いておりますが、IDECブランドの主要顧客であるファクトリーオートメーション業界向けの受注は堅調に推移しております。

EMEAは、為替の影響などもあり改善傾向となっており、アジア・パシフィックは、引き続き中国での受注が堅調に推移しております。

資産のポイント

- 現金及び預金が減少したものの、固定資産や棚卸資産が増加したことなどにより、総資産は前期末比約32.7億円増加

負債のポイント

- 未払金や借入金、未払費用が減少したことなどにより、負債は前期末比約11.8億円減少

純資産のポイント

- 利益剰余金が減少したものの、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、純資産は前期末比約44.5億円増加

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2025年3月期 (前会計年度)	2026年3月期 (12月末)	前会計年度末比 増減
流動資産	51,480	50,935	△ 544
固定資産	55,736	59,548	+3,812
流動負債	27,662	26,535	△1,126
固定負債	15,744	15,688	△ 56
純資産	63,810	68,261	+4,451
総資産	107,216	110,484	+3,267
自己資本比率	58.9%	61.2%	+2.3%

続いて、貸借対照表についてご説明いたします。

資産については、現預金が減少した一方、固定資産や棚卸資産が増加したことなどから、総資産は前期末比で約32.7億円増加いたしました。

なお棚卸資産が増加傾向となっておりますが、現在グローバルベースで需給調整を進めており、期末に向けて徐々に減少させていく予定です。

負債については、未払金や借入金、未払費用が減少したことなどにより、約11.8億円減少いたしました。

自己資本比率は前期末比で2.3%上がり、61.2%となりました。

営業活動によるCF

- 棚卸資産が増加し、法人税等を納付した一方、税金等調整前四半期純利益や減価償却費の計上により、約38.5億円

投資活動によるCF

- 固定資産の取得などにより約△34.6億円

財務活動によるCF

- 借入金の返済や配当金などの支出により約△47.5億円

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2025年3月期	3Q累計	2026年3月期	3Q累計	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー		9,665		3,856	△5,809
投資活動によるキャッシュ・フロー		△6,400		△3,462	+2,938
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)		3,265		394	△2,871
財務活動によるキャッシュ・フロー		△2,650		△4,750	△2,100
現金及び現金同等物の期末残高		16,031		15,069	△ 961
設備投資額		9,719		3,923	△5,796
減価償却費		3,059		2,979	△ 80

営業活動によるキャッシュ・フローについては、棚卸資産の増加や法人税等を納付した一方、税金等調整前四半期純利益や減価償却費の計上により、約38.5億円となりました。

また、投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得などにより約△34.6億円となりました。

設備投資額については、米州事業強化に向けた新社屋設置のため、前期の第3四半期に米国で土地と建物を新たに取得したため、前年同期比で約58億円の減少となる、39億円となりました。

2026年3月期 連結業績予想

最後に通期業績予想についてですが、

2026年3月期 通期業績予想 ※修正なし



- 第3四半期までの実績は計画を上回る水準で推移しており、第4四半期についても大きなリスク要因はなく、堅調に推移する見込

(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2025年3月期		2026年3月期		
	実績	対売上比	予想	対売上比	前期比
売上高	67,380	100.0%	68,700	100.0%	+ 2.0%
売上総利益	29,437	43.7%	30,460	44.3%	+ 3.5%
販売費及び一般管理費	25,784	38.3%	25,710	37.4%	△ 0.3%
営業利益	3,652	5.4%	4,750	6.9%	+30.0%
経常利益	3,477	5.2%	5,020	7.3%	+44.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,778	2.6%	3,450	5.0%	+93.9%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	60.36円	—	117.06円	—	+56.70円
米ドル平均レート (円)	152.62円		145円		△7.62円
ユーロ平均レート (円)	163.87円		160円		△3.87円
人民元平均レート (円)	21.11円		20.50円		△0.61円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

15

5月に発表した予想を変更しておりませんが、第3四半期までの実績は計画を上回る水準で推移しております。
第4四半期についても、現時点で大きなリスク要因はなく、堅調に推移すると見込んでおります。

2026年3月期 通期業績予想 ※修正なし



(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2025年3月期	2026年3月期	
	実績	予想	前期比
HMI事業	31,842	33,000	+ 3.6%
インダストリアルコンポーネツ事業	11,294	11,500	+ 1.8%
オートメーション&センシング事業	8,705	8,500	△ 2.4%
安全・防爆事業	11,045	11,500	+ 4.1%
システム	3,479	4,200	+20.7%
その他※	1,013	—	—
合 計	67,380	68,700	+ 2.0%
※IDECシステムズ&コントロールズ株式会社（太陽光発電事業）の売却等により、2026年3月期から「その他」は廃止			
国内売上高	24,294	24,800	+ 2.1%
海外売上高	43,085	43,900	+ 1.9%
(海外比率)	(63.9%)	(63.9%)	

製品別、地域別の予想につきましても変更なしとしております。

－：横ばい ○：拡大

業界	2027年3月期の見通し（2026年3月期比）	日本	米国	欧州	中国	APAC
工作機械	欧州を除き、各地域で引き続き一定程度の成長が見込まれています。	○	○	－	○	○
半導体	半導体市場はグローバルで力強い成長が見込まれていることから、半導体製造装置も成長が期待されています。	○	○		○	
ロボット	米国や中国を中心に、グローバルで成長が見込まれています。	○	○	－	○	
自動車	米国の関税政策や欧州市場の影響などもあり、成長は限定的と見込んでいます。	－	－	－	－	○
特殊車両	建設機械、マテハン向け装置、防衛関連などは、今後徐々に回復が見込まれています。	－	－	－	－	
AGV・AMR	グローバルで力強い成長が続く見込みです。	○	○	○	○	

2027年3月期の主要業界の見通しについては、米国の関税政策や欧州市場の影響などが不透明な自動車と特殊車両業界を除いて、工作機械や半導体、ロボット、AGV・AMR業界は、日本、米国、中国を中心にグローバルで成長が続くと見込んでおります。

以上が、決算概要に関するご説明となります。

IDECホームページのご紹介

- コーポレートサイトと製品サイトを分離し、より使いやすいサイトに刷新
- 目的の情報に直感的にたどりつけるよう情報を整理し、各コンテンツへの動線を分かりやすく改善することで、**ユーザビリティを向上**
- サイトデザインを刷新し、より**洗練されたビジュアル構成にアップデート**



コーポレートサイト : <https://www.idec.com/ja>



製品サイト : <https://www.idec.com/ja-jp>

參考資料

通貨	為替前提	1円変動による影響額 ※人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	145円	約100百万円	約10百万円
ユーロ	160円	約110百万円	約10百万円
人民元	20.50円	約40百万円	約5百万円

23年4月～25年12月の業界出荷額推移と対前年比の状況

(単位：百万円)



HMI	インダストリアル コンポーネンツ	オートメーション& センシング	安全・防爆	システム
<ul style="list-style-type: none"> ・制御用操作スイッチ ・ジョイスティック ・表示灯 ・プログラマブル表示器  <p>APEM製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチング電源 ・端子台 ・制御用リレー/ソケット ・サーキットブレーカ ・産業用LED照明 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラマブルコントローラ ・センサ ・自動認識機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全関連機器 ・防爆関連機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働ロボットシステム ・表示器複合システム ・セキュリティシステム ・その他各種システム 

この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。

従って、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社
経営戦略企画本部
TEL : 06-6398-2505
FAX : 06-6398-2587

